

みなさんは、「南庄内・たべるを支援し隊」をご存知ですか？



私たちは在宅を中心とした地域一体型 NST の活動を行っています。NST とは Nutrition Support Team(栄養サポートチーム)の略で、適切な栄養管理を実践し支援する多職種で構成されたチームのことです。

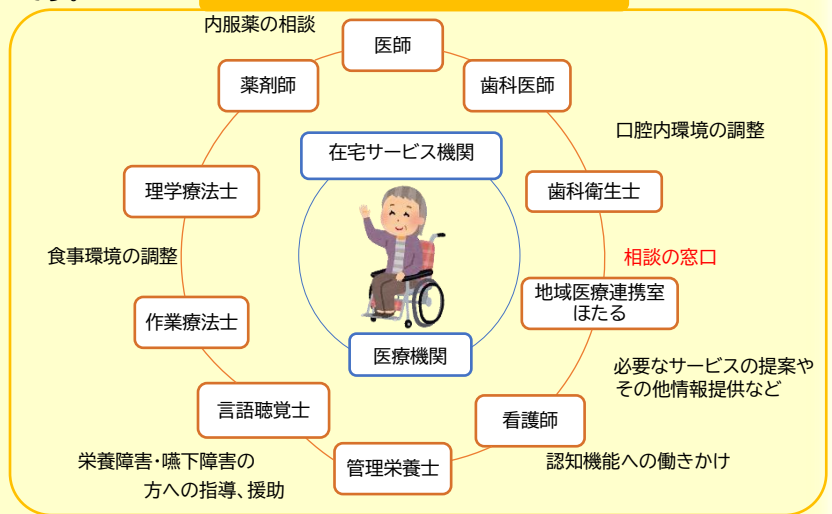
鶴岡・三川地区を対象に 2018 年から活動を始め、今年で 6 年目に入りました。これまで関わったケースでは、在宅から施設入所の方、看取り希望の方まで幅広いご依頼があり、その一つ一つのケースに多職種で丁寧に議論を重ね、病院や施設、在宅に関わる関係医療機関と連携を取りながら活動を進めてきました。多職種で栄養サポート活動を地域の中で先進的に実践しているチームがあるのは全国でも珍しいです。

在宅療養高齢者の 4 割は低栄養状態であり、低栄養の恐れがある方も含めると 7 割近くが栄養状態に何らかの問題を抱えているといわれています。適切な栄養管理を行い、在宅で生活する基礎的な体力を維持・増大することは、「支える医療」の根幹に関わる大事なことです。

また、在宅で、望む目標をサポートするための適切な栄養管理を行うことは、ADL の向上に繋がるとともに、QOL の改善、人生の最終段階において平穏な生活を過ごすことに繋がるものと考えられています。

今後も、在宅で生活する一人でも多くの方に、最期まで自分らしい生活を送っていただきたい、ご家族の不安に寄り添いたい、日常の悩みにお役に立ちたいという思いとともに、我々の活動を知っていただきたく、今回初めて「南庄内・たべるを支援し隊」ニュースレターを発行させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

たべるを支援し隊の構成メンバーと主な活動



南庄内・たべるを支援し隊の活動への協力依頼（診療所・病院医師へのメッセージ）

庄内保健所 所長 蘆野吉和

現在、南庄内地域では、「南庄内・たべるを支援し隊」が多職種協働による食支援の活動を行っています。食はいのちの源であり、生きがいの対象でもあることより、庄内のおいしい食材を、人生最期の時まで、例えば少量でも、口からおいしく食べることができるまちづくりとしての活動です。

寿命が飛躍的に延びる一方で、多くの人に様々な要因で、口から食べられなくなる状況が生じています。それは、一時的なことであったり、病気や加齢の進行に伴う最終的な出来事であったりしますが、一時的なことであれば、その要因を多職種の視点で評価し、栄養ケアを含めた多面的なケアとして栄養改善を目的とした食支援となりますし、最終的な出来事であれば、生きがいとしての食べる喜びをかみしめることを目的とした食支援となります。医師もこの食支援に関わる重要なスタッフであり、医学的視点から病状の把握と今後の病状経過の予測を行い、必要な薬を処方するというよりは、社会的処方を行い、包括的指示を行って、食支援チームを動かし支えるという重要な役割もっています。ご理解とご協力（参画）をお願いします。

事例紹介

86歳女性 アルツハイマー型認知症、脳梗塞、左大腿骨頸部骨折

介入時は、食事摂取量が減っており、サービス利用時は2~3口程度。このまま食事が食べられないと胃瘻造設も視野にいれなければならない状況でした。

摂取量の低下以外に、体の傾き、口腔内の溜め込みやムセ、疲れやすい、義歯が合わない等の問題点があったため、たべるを支援し隊の各専門職が、ご家族やデイサービス職員に食事摂取状況に合わせた情報提供を行い、徐々に食事摂取量の増量に繋がりました。更に安定したものにするため、主治医より栄養補助食品を処方していただきました。

介入前に33.5kg(BMI14.9)だった体重が、介入後には37.9kg(BMI16.8)となり4.4kg増量することができました。また、自分で食べることを難しくしていた傾いた姿勢が改善され、自力での摂取ができるようになりました。義歯の管理が改善されたことによって、安定した義歯の装着が可能になり、更に摂取量が改善し、体力も改善されたことによって、嚥下機能の改善も図られ、多くの種類や量の食事を食べるできるようになりました。



介入から
5ヶ月後



椅子やクッションの調整や、
ポジショニングの説明。



食べやすい食事内容の提案と、
栄養価の高い市販食品を食卓に
取り入れる工夫を提案した。



歯科医師が口腔内を評価した
結果を全職種で共有した。



また息子さんの義歯への意識が変わり、結果的に不具合が改善された。

担当ケアマネジャーさんより



相談から速やかに対応していただいた。

正直なところ、今回のケースは認知症に失行・失認・老化による自然な摂食意欲の低下と考えており、目を見張る成果が得られ、自身の浅はかな考えを反省した。ひょっとしたら今までも相談していたら改善したケースがあったのかもしれないと思う。今後も食事摂取の課題でお困りの方がいたら、積極的に相談させていただきたい。

今までやり取りをすることのなかった専門職の皆様とも交流できて非常に有意義でした。

「南庄内・たべるを支援し隊」への申込について

< 対象 >

栄養障害・嚥下障害により生活に支障をきたす方

半年で、2kg~3kg程体重が減った方、または減ることが想定できる方で下記の状態がある方

- ・半年前に比べて堅い物が食べにくくなった
- ・入れ歯等が合わず咬みにくいものが多い
- ・食べるのに時間がかかる
- ・口が渇く
- ・味が分からない
- ・お茶や汁物でむせることがある
- ・口の中・のどに食べ物が残る感じがする
- ・食べる意欲がない
- ・当人に合った食事・調理法がわからない



< 申込み方法 >

ほたるホームページより申込書をダウンロードいただき地域医療連携室ほたるまでお送りください。

< 申込み先 >

地域医療連携室ほたる TEL:0235-29-3021
FAX:0235-29-3022